



栃木県立栃木高等学校



所在地 〒328-0016 栃木市入舟町12-4
電話 0282-22-2595
F A X 0282-22-2534
U R L <http://www.tochigi-edu.ed.jp/tochigi/nc2/>
創立 明治29年4月1日
課程 全日制課程
設置学科 普通科
生徒数 712名(男子712名)(令和3年5月1日現在)
利用交通機関 栃木駅・新栃木駅から徒歩20分



全
日
制

I 学校の概要

1 沿革

明治29年栃木県尋常中学校栃木分校として創立、以来、第二中学校、栃木中学校等を経て、昭和26年栃木県立栃木高等学校と改名し、現在に至る。明治・大正時代には、大本営がおかれた本校に明治天皇や大正天皇の行幸を賜り、その際御在所とした建物は「御聖蹟」として現在も保存され、年1回の学校祭で一般公開される。昭和36年に30kmの強歩大会として始まった栃高耐久レースは現在もロードレースとして地域の方々の協力も得て本校の伝統行事の一つとなっている。平成29年度に文部科学省からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)2期目の指定を受け、今年度も充実した実践を継続している。なお、令和4年度入学生より、進学に重点を置いた「進学型単位制」を導入する。

2 栃高の特色

本校は創立125年の伝統を持つ男子校である。校内には文化財に登録されている明治・大正時代の建造物が3棟あり、現在も使用されている。校舎と校庭の間には旧県庁の堀が流れ、錦鯉が悠然と泳いでいる。生徒達は「独立自尊」「和信敬愛」「進取創造」「質実剛健」の校訓のもと、生き生きと全力的に学校生活を送っている。将来の自己実現、進路実現を目指し主体的に学習し、卒業生の半数が現役で国公立大学に進学している。また、部活動・学校行事も盛んで、「文武両道」をモットーに、時間とエネルギーの遣いどころ、蓄えどころをしっかりと見極めて、将来社会の期待に応えられる有為な人材となるべく、日々仲間と切磋琢磨しながら自己研鑽に努めている。

平成29年度からの5年間、SSH2期目の指定を受け、科学的な見方・考え方、問題解決能力、コミュニケーション能力を醸成するためのプロジェクトが新たにスタートした。今年度はその5年目として、最先端の研究機関や大学との連携がいつそう深まり、将来国内外でリーダーとして活躍できる科学者技術者に必要な素養を身につけるためのプログラムに、生徒全員が参加している。

3 学校教育目標

ひとりひとりが、人間として調和のとれた発達をめざして努力するとともに、民主的社会の形成者として必要な資質を養い、自己と社会のあり方を広い視野に立って理解し、社会の動向に正しく対処でき、将来有為な人材となる。

1. 学力を高め、教養を深めて、判断力のある生徒となる。
2. 気力、体力の充実に努めて、健康で明朗な生徒となる。
3. 自主的、積極的に行動して、全力的で生き生きとした生徒となる。
4. 自他を敬愛して、協調性豊かな生徒となる。
5. 勤労と責任を重んじて、誠実で勤勉な生徒となる。

4 目指す学校像

「発展し続ける伝統進学校」を合い言葉に、時代の要求にこたえられるリーダーを育成する学校

5 募集する生徒像

本校の教育目標と目指す学校像を理解し、次の(1)(2)の両方に該当する生徒

- (1) 自分の夢に向かって自ら目標を設定し、その実現に向けて全力で頑張る生徒
- (2) 学力、体力の向上に努めるとともに、協調性豊かで活気に満ちあふれた生徒

6 伝統ある建物（国の登録文化財）



- (1) 講堂（明治43年落成）
同窓会入会式を始め部活動紹介、学年集会等が行われる。壁面に歴代校長の肖像画が並ぶ、荘厳な建物。
- (2) 記念図書館「養正寮」（大正3年落成）〔左写真〕
休日には、この記念図書館の前で写真を撮る観光客も多い。
- (3) 記念館「御聖蹟」（明治29年創立時の建造物）
1階は本校の歴史を辿る資料展示室。2階は明治天皇・大正天皇が御在所とした際の間取りがそのまま残る。
これらの建物は映画やプロモーションビデオの撮影にも使われている。

II 本校での学習

1 「進学型単位制」の教育課程

各年次とも6クラスで、1、2年次は均質クラス、3年次からは各自の進路希望に合わせて文型・理型に分かれる。生徒は、単位制のメリットを生かし、進路希望や興味関心、習熟度に応じて設けられた多数の科目の中から、主体的に選択した科目を自らの資質・能力の向上、進路実現に向けて学ぶことができる。

一方で、「時代の要求にこたえられるリーダーを育成する」という本校の目的を実現するため、教科や科目を偏りなく学ぶ「全教科主義」を貫くことを課している。

1コマの授業は50分で行われ、週5日間のうち4日間が7時間授業となる。現在、木曜日の7時限目が1・2年生のSSH関連の授業（課題研究Ⅰ・Ⅱ）に充てられ、先進的な探究的学びを実現している。（令和4年度入学生教育課程表）

1年	国語 (5)	地歴 (2)	数学 (6)	理科 (4)	保・体 (4)	芸術 (2)	英語 (6)	家庭 (2)	課題研究 (2)	L H R (1)	
2年	国語 (5)	地歴 (2)	公民 (2)	数学 (6)	理科 (2)	保・体 (3)	英語 (6)	選択科目 (5)	SS 情報 (1)	課題研究 (1)	L H R (1)
3年	文	国語 (6)	体育 (2)	英語 (7)	選択科目 (17)				SS 情報 (1)	L H R (1)	
	理	国語 (4)	数学 (4)	体育 (2)	英語 (6)	選択科目 (16)				SS 情報 (1)	L H R (1)

2 主体的な「学び」への姿勢

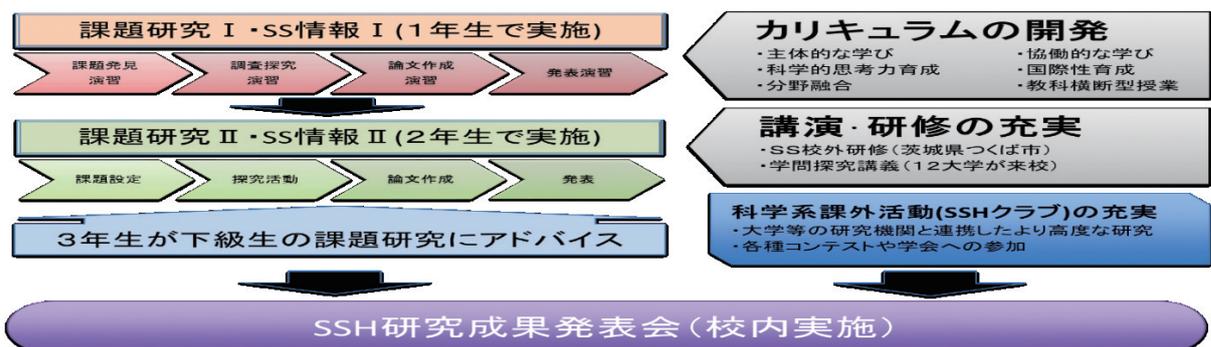
本校は「おもしろい!」「もっと知りたい!」「なぜそうなるの?」といった内発的な動機をもとにした学習を大切に、教科書の内容にとどまらない、未来につながる本当の「学び」を追求している。生徒は授業に積極的に参加し、教師と生徒が協働することで学習成果を高めている。

また、キャリア教育にも力を入れており、将来を見据えた自分のあり方、生き方を追求していく機会を数多く設けている。大学や研究機関に出かけていくだけでなく、大学の先生や企業や研究所の職員の方々の来校を仰いで出前授業をしていただくことで、真の「学び」へ向かうモチベーションを高めている。

卒業生は2万9千人を超え、その豊富な人材を生かし、卒業生による講演会や、卒業生との懇談会が頻繁に行われている。平成29年度には小惑星探査機「はやぶさ2」ミッションマネージャの吉川真JAXA准教授、令和元年度にはスタジオジブリ代表取締役社長である中島清文氏にご講演をいただいた。

3 思考力・判断力・表現力を醸成する「SSH事業」

（栃木高校SSH事業の概念図）



Ⅲ 進路状況

1 主な合格大学（旧卒者も含む） <令和3年度入試>

〈国公立大学〉

東京2 東京工業3 一橋1 北海道5 東北13 大阪1 筑波2 千葉9 名古屋2 京都1 神戸2
東京芸術1 東京外国語1 電気通信6 東京農工1 横浜国立4 金沢7 茨城8 宇都宮13 群馬7
埼玉3 新潟14 富山3 信州3 静岡6 東京都立4 秋田県立2 高崎経済2 医学部医学科6

〈私立大学等〉

早稲田7 慶應義塾7 明治29 青山学院7 立教6 法政30 中央38 東京理科34 学習院7 芝
浦工業39 同志社5 立命館10 関西1 防衛大学校1 水産大学校2 自治医科1 医学部医学科7

2 進路概況（表中の数値は各年度の新卒の実数）

本校生徒は、高校入学時からほぼ全員が国公立大学進学を希望している。その目標を更に深化させ、10年後20年後の将来を見据えた進路希望を確立していくと共に、大学進学というものを自分の将来像を実現するための大きな一歩として捉えていく。このようにして築きあげられた大学進学という確固たる希望を実現させるのが栃高生としての当面の目標であり、そのために培われなくてはならないものが個人個人の「力」である。

近年の国公立大学進学者は概ね100名から120名の間で推移し、学年の約半数となっている。私立大学も学費や通学事情なども考慮に入れながら、約70名の生徒が進学している。このような進路状況は、各自の将来像と個人個人の「力」が織りなした結果であり、また、生徒、保護者、学校が一体となって一人一人の進路実現を目指した教育活動を行った結果でもある。

	進 学			就 職	そ の 他
	四年制		専修		
	国公立	私 立			
R3入試	112	73	1		51
R2入試	98	89			53
H31入試	107	70			54

Ⅳ 特別活動（部活動、学校行事）

1 部活動一覧と活動状況

生徒の80%が部活動に加入し、意欲的に活動している。

体育部	野 球 部	剣 道 部
	バスケットボール部	柔 道 部
	サ ッ カ ー 部	水 泳 部
	バレーボール部	バドミントン部
	ソフトテニス部	山 岳 部
	卓 球 部	弓 道 部
	陸 上 競 技 部	テ ニ ス 部

文化部	社 会 部	写 真 部
	音 楽 部	書 道 部
	語 学 部	放 送 部
	演 劇 部	史 学 部
	美 術 部	天 文 部
	物 理 部	茶 道 部
	化 学 部	囲碁・将棋部
	生 物 部	情 報 科 学 部
	園 芸 部	漫 画 創 作 部

生徒会下部組織
應 援 団

主な成績（平成28～令和2年度）

- 陸上競技部／全国大会出場（H30）・関東大会出場（H28～R2）
- SSH物理班／日本学生科学賞科学技術政策担当大臣賞・県最優秀賞（H28）
缶サット甲子園全国大会出場（H28・H29・R1）
- 囲碁将棋部／〔囲碁〕全国大会出場（H30・R2）・関東大会出場（H28～R2）
〔将棋〕全国大会出場（H29）・関東大会出場（H28）
- 演 劇 部／全国大会優良賞（H30）
関東大会優秀賞（H29・R2）・関東大会優良賞（H30・R1）
- 漫画創作部／全国「まんが甲子園」本選入賞（H30）
- 書 道 部／全国総文祭出品（H29）・同特別賞（H30）
- 山 岳 部／関東大会出場（H28・H30）
- 水 泳 部／関東大会出場（H28～R1）
- 空 手 道／全国大会出場（H28）
- ビブリオバトル／全国大会出場権獲得（H28）



2 人間的成長につながる特色ある学校行事

部活動のみならず、生徒全員が全ての学校行事に全力で取り組んでいる。

- 栃高スポーツ祭：栃木市の運動公園を会場にして、熱い戦いが繰り広げられ、クラス、学年の結束が強まる。
- 栃 高 祭：毎年行われる学校祭で、3000人近くの来校者を迎え、日頃の学習成果の発表や各種催しを行う。栃高の誇る幅広い人材に触れるよい機会となっている。



○栃高耐久レース：27kmのロードレースである。1ヶ月半に及ぶトレーニングも含め、栃高生の「強さ」を育てている行事である。出走率95%、完走率99%を誇る。

V 特色選抜について

1 定員の割合

普通科 20%程度

2 出願するための資格要件

中学生としての基本的な生活習慣と全ての教科における基礎的な知識・技能を身につけた生徒で、次の(1)又は(2)のいずれかに該当する生徒

- (1) 学習に対する意欲・関心を強く持ち、国語・社会・数学・理科・英語の成績が優秀で、本校の学習において顕著な成果が期待できる者
- (2) 部活動、生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に参加し、顕著な実績を残した生徒で、本校入学後もこれらの活動に積極的に参加する意志のある者

3 選抜の方法

選 抜 方 法	内 容
面 接	個人面接 時間10分程度
学校独自検査	総合問題A (50分) 文系的内容の基礎力を問うもの 総合問題B (50分) 理系的内容の基礎力を問うもの

4 その他、特記事項

・スーパーサイエンスハイスクール (S S H) 指定校 (文部科学省) (平成29年度から5年間)

5 選抜の手順等

【資料の取扱い】

- 1 志願理由書は、調査書とともに、資格要件の確認及び面接時の参考資料として用いる。
- 2 調査書は、
 - ①第1学年から第3学年までの「各教科の学習の記録」の評定 (選択教科を除く) を合計し、200点満点に換算する。
 - ②第1学年から第3学年までの「各教科の学習の記録」の国語・社会・数学・理科・英語の評定 (選択教科を除く) を合計し、100点満点に換算する。
 - ③点数化されない部分については、資格要件に該当するものを評価する。
- 3 面接は、段階評価を行う。
- 4 学校独自検査は、総合問題Aを100点、総合問題Bを100点として合計200点満点で採点する。

【選抜の手順】

次の各段階に該当する受検者について順に、調査書の点数化されない部分の内容を考慮して総合的に選抜する。なお、第1・2次審議においては、【資料の取扱い】の2①及び4の合計点の順位が特色選抜の募集定員の2倍までの者 (ただし、受検者の数が特色選抜の募集定員の2倍に満たない場合は、全ての受検者) を対象とする。

第1次審議

【資料の取扱い】の2②及び4の合計点の順位が特色選抜の募集定員の80%以内にある者 (ただし、受検者が定員に満たない場合は、受検者の80%以内にある者) で、面接の評価が良好である者を合格内定とする。

第2次審議

第1次審議で合格内定となった者を除いた受検者のうち、【資料の取扱い】2③の記載事項において、部活動、生徒会活動、ボランティア活動などにおける実績が特に顕著であると認められ、面接の評価が優秀である者を合格内定とする。

第3次審議

第1・2次審議で合格内定となった者を除いた全ての受検者について、全ての検査結果を総合的に判断して、合格内定者を選抜する。